

「署名を集める」と一言で言うけど、なかなか大変なことだ。

子供が私立の学校に通っていたころは、毎年、私学助成の署名は主にお母さんたちの肩にかかっていた。街頭署名は問題のアピールのためには大切な活動だが、街に立って署名を集めるのは至難の業で、ずいぶん鍛えられた。かれこれ計算すると20年余りやったことになる。

小田急線の駅に立ち、用事があるからこそ出かけてきた不特定多数の人を相手に声を掛け立ち止まってもらい、チラシを渡し、署名の「要望趣旨」を説明し、賛同を得たらペンを渡し名前と住所を記入してもらおう。これで一筆。大方の人々は時間に追われており、よほど同じ分野を理解している人か、ヒマな人以外は「あ、ちょっと」とか「急ぎますので」と言って逃げるようになってしまう。その他は見ない振りをして目を合わせることもなく無視。シカトである。

私だって逆に立場だったら同じことをするかもしれないと思いつつ、心を立て直して声を上げる。内心は複雑だ。2時間立ってやっと10人分を集めた頃には慣れないことにヒドイ疲れに見舞われて、ぐったりしてしまう。

さて、この方法以外に知人に伝播する方法がある。

まず、署名用紙原本を50枚程度コピーして普段からお付き合いのある人たちに「要望趣旨」を伝え「配る」と共に「頼み込む」のである。

このときに重要なのは信頼関係だ。「あ、いいよ！」と二つ返事でやってくれる人間関係だ。何も署名集めに築いた人間関係ではないが、早朝の散歩時に気安くしてきた「おはよう!」、スーパーで出会ったときの「よっ!」の一言がこの時とばかりに生きてくる。

特に今年17歳前に死んでしまったビーグル犬のウメが本当に力になってくれた。子供と犬は人と人を結びつける天才で、沢山の仲間を作ってくれた。

お散歩バッグにいつも署名用紙を忍ばせていて、ここぞ!という時に「お渡し」するのである。

「忘れちゃうから～」とその場で署名すると言う人も居れば、家で書いてくれる人も居る。なにせ、外だと風は吹く、雨も降る、虫に刺される、寒い、暑い、トイレに行きたい、犬が引っ張るから字にならない。テーブルがないので書きにくいし、バカ話のお喋りもしたいから落ち着かない。

そんなこんなして、お願いした署名は、ある人は更に原紙をコピーして署名を知人に頼んで書いてくれて、うちのポストに入れてくれる。

完成できていない抜けた分は私が知人に電話を掛け捲って同意を得たなら代筆する。ハチマキして。

署名集めは大変である。

でもね、「憲法を守ろう!」この声、天まで届け!と、願うわけ。